

総 会 宣 言（案）

私たちは、本日ここに、市内11支部が結集して、2021年部落解放同盟京都市協議会定期総会を開催し、人の世に熱と人間に光をもたらすため、さらに奮闘することを誓い合った。

新型コロナウイルスの拡大により、感染者や医療従事者、その家族などにたいする排除や差別が社会問題となり、日本社会の人権課題は、部落、障害者、外国人、先住民、性的少数者、女性、子ども、高齢者など、以前から指摘されてきた課題だけではなく、いつでも、誰に対しても向けられる、根本的に解決されなければならない課題として認識されつつある。人権と平和、民主主義、環境を基軸にした、命と生活を守る部落解放運動の役割はますます重要になっている。

政府は、今年度予算で軍事費を増大させるとともに、憲法違反の「敵基地攻撃力」保持の検討や沖縄・辺野古の新基地建設強硬をすすめるなど、米国追従をいっそう深めている。我々は差別と戦争に反対する闘いをさらに強化していかなければならない。今年には衆議院総選挙、来年には参議院選挙が実施される。強権政治の打破に向けて、全力でとりくみをすすめよう。

来年3月3日に「全国水平社創立100周年」を迎える。この間、市協は「100周年を通過点にするのか」「人権確立の起点にするのか」を各支部に問いかけてきた。それは「福祉で人権のまちづくり運動」を基礎活動とし、地域を自分たち住民の結集により「ムラ自慢、支部自慢」として創り上げることだ。主な柱は、障がいのある人や高齢者、ひとり親家庭、生活困窮者などの立場の弱い人に寄り添った地域共生社会の実現と、人権三法の理念を据えた「ムラ」に蘇生することである。いよいよ、各支部の真価が問われる時期をむかえることになる。

この総会を契機に、京都市協に結集する全支部の団結をもって、部落完全解放と真の人間解放の社会を実現するよき日まで全力でたたかい続けることを、ここに宣言する。

2021年6月15日

2021年部落解放同盟京都市協議会定期総会